

ザ・商社

持続的成長めざして

＝⑨＝

宇都宮製作（本社・大阪府東大阪市本庄西、大西健路社長）は、1903（明治36）年に衛生材料を扱う宇都宮商店として創業、今年で106年を迎える歴史ある老舗商社。

宇都宮製作

宇都宮製作は、衛生材料を扱う宇都宮商店として創業、今年で106年を迎える歴史ある老舗商社。家庭用まであらゆる用途の手袋を揃えている。そのほか衛生キャップ・マスク、指サック、水枕などの医療用品、工業用チューブ等を展開している。

療や食品関連など景気の影響を受けにくいものという点もあり、昨年秋季の深刻な不況にもかかわらず業績は好調で、09年3月期は前期比8.3%増収、10年3月期も

社売上高は25億円だった。それが現在は4倍にまで拡大した。就任以来減収したのは1度きり。それ以外はすべて増収を続けている。同社100年の歴史の中でも中興の祖といえる存在だ。

体制を構築した。また、以前は病院や工場といった事業場向けが主な販売ルートだったが、介護用品の立ち上げにより一般ルートを開拓、2年前からは量販店ルートも開拓し、販路が飛躍的に拡大した。同社が最も力を入れているのは医療用

し品質管理も徹底している。自社製品として責任を持って生産・開発している」と言葉に力を込めた。海外生産は6割を占めている。現在、中国、マレーシア、インドネシア、ベトナムで生産しており、生産量が最も多いのは中国だ。

食品産業向けの衛生用品を扱う企業として「衛生観念を社員に啓蒙する意味で導入した」という。社長就任以来、こうしたことも含めて人材の育成には力を入れていく。最近私は何も言わなくても、みんなが積極的に動くようになってきた。会社が効率的に回るようになってきた」という。

不況でも増収を達成

社長就任後、売上4倍に拡大

大西健路社長



大西健路社長

大西健路社長は来年初2月、社長就任20年目を迎える。平成2年の就任時、同

品と工業用品の2本だった。そこから就任2年目に食品衛生用品事業を立ち上げ、その後、福祉・介護用品事業を立ち上げた。陣頭に立って、それらの事業を育成・強化すること、現在の4事業

品と工業用品の2本だった。そのうち、自社ブランド品が売上高の8割を占めるという。大西社長は「最も重要なのは、創造」ということ、製品開発には力を入れている。海外の委託工場には社員を派遣

いるのが製品開発。商社でありながら、自社ブランド品が売上高の8割を占めるという。大西社長は「最も重要なのは、創造」ということ、製品開発には力を入れている。海外の委託工場には社員を派遣

同社を訪ねて最初に気になったのが、社長を始め社員全員が同じ白いシューズを履いていること。これは食品工場ですとのことで、医療や

製品開発に注力

同社は医療関連用品、食品衛生用品、介護関連用品、工業用品の4分野にゴム・樹脂製品を展開している。主力製品は売上高

■宇都宮製作の概要

▽創業 1903

(明治36)年▽営業品

目 工業用ゴム・樹脂

成形品、医療用ゴム製

品、食品衛生用品▽資

本金 9000万円▽

業績 売上高 92億39

00万円(09年3月

期)▽従業員 75人